

利府町赤沼
名取栄喜さん(90歳)のお話

利府町内を東北本線旧線が通っていたことを知っている人は、年々少なくなっています。「山線」の話を聞きたいと、赤沼信号場跡近くにある「名取商店」を訪ねました。ご主人の名取栄喜さんは仙台車掌区で働いていた鉄道マン。当時の様子をいろいろ語ってもらいました。



鉄道の仕事にあこがれて

実家の「名取商店」は、お酒のほか日用雑貨なども扱う、地域のよろず商店で、お祖父さんの時代から続いている店舗になります。子どもの頃から、家のそばの山線を走る蒸気機関車を見て育ちました。近くに国鉄官舎があつて、そこを往来する鉄道マンは、あこがれ的でした。

念願かなって、JR東日本旅客鉄道株式会社(当時:日本国有鉄道)に入社したのは、1943(昭和18)年のときでした。



利府駅の様子

町民は、利府から仙台への移動手段として、鉄道を利用していました。梨の季節になると、籠いっぱいの梨を背負って仙台まで売りに行く農家の人びとで駅は賑わい、列車はたいへんな混みようでした。

停車駅は今と同じく利府から岩切、東仙台、そして終着の仙台駅まで、所要時間は20分位。「山線」をまだ蒸気機関車が走っていた頃のこと、ポーポーと汽笛を鳴らして走る列車の音が懐かしいです。

車掌一筋、山線にも乗車

1988(昭和63)年、現役を終えるまで新幹線の車掌を勤めていた栄喜さん。なかでも東北新幹線開通の時、大宮から盛岡まで行く第1号列車の車掌を務めたことが一番印象に残っているといいます。昭和から平成と、利府を走る鉄道物語の一端にふれるお話しでした。

もちろん東北本線にも乗りました。染殿神社の踏切あたりが、この路線で一番勾配がきついところです。利府方面から上れないことも度数ありました。その時は、今の「新利府駅」付近まで戻り、利府駅は止まらずにスピードを上げて走ることで上り



「鉄道」は魅力的な地域資源

日本で最初に幹線鉄道が敷設されたのは東海道本線で、1889(明治22)年に東京・神戸間が全通しています。その頃利府にも鉄道が登場していました。背景には、地域住民の熱心な行動がありました。また、「山線」の廃止においても住民の思いが利府駅を残すことにつながっていました。こうした事が本書の取材で明らかになりました。廃線跡の活用は、ニューヨークにおける「ハイライン」や飛騨市の「レールマウンテンバイク・ガッタンゴー」などがあり、現在密かなブームとなっているようです。来年2018年は、明治元年から数えて150年。明治期における幹線鉄道の廃線跡は全国的に珍しく、利府ならではの地域資源活用策は、現在が進める「明治150年」施策との関連も期待されます。

アドバイザー 宮城大学准教授 佐々木秀之



現在、東北本線支線の終着駅になっている利府駅ですが、みなさんは、いつから終着駅になつたか、ご存知ですか?

それは、1962(昭和37)年のことで利府~品井沼間の路線が廃止され、東北本線は塩釜~松島と海寄りのルートを走るようになったのです。

その経緯を紐解いてみましょう。

案内人
利府町郷土資料館 高橋義行 谷野俊平

東北本線旧線
(山線)

利府町のんびりまち歩き



森郷児童遊園 (SL公園)
週末には子どもたちで賑わう人気のSL公園には、C58形蒸気機関車とED91形交流式電気機関車が保存されています。今から約40年前に機関車が誘致され、公園として整備されました。



森郷字一里塚 付近
橋を支える橋脚

橋自体は廃線後に架けられたものですが、旧線時代の橋脚が今でも橋を支えています。



春日字金生 付近

現在も残る築堤

廃線となった後でも旧線路敷設にともなって築かれた築堤が残り、趣がある風景が続ります。



春日字藤田 付近

旧線跡路

左側には熊野神社があります。三陸自動車道の開通により、利府中インター付近で一部消失してしまいますが、その奥から再び廃線跡が続いています。



春日字大沢 付近

旧線跡跡

森林の中に残る廃線跡。アスファルト舗装され、生活道路として利用されています。



春日字黄金井 付近

築堤の下に造られた隧道

明治時代に造られたレンガ造りのアーチ橋。山線が走っていた頃の様子を伝えてくれます。



赤沼字横街道 付近

森戸神社から松島方面に600mほど行ったところ、左側が県道8号線、右側が三陸自動車道。信号場があった場所には当時停車場もあり他の廃線跡と比べて広くなっています。

今日はここまで!



5人目

-お名前
まつだ けん
松田 献 さん- なにをしているひとですか?
利府町の森の中にあるカフェ
「生石庵 OISHI-AN」の店長です。日常を「ちょっと豊かにする」
くつろぎの場所

震災で感じた、日常の大切さ

大きめのカップに、たっぷりのコーヒーを淹してくれる松田さん。「人が好きなので、いろんな人たちが来てくれるカフェの仕事は楽しいです」と語ります。宮城県出身の松田さんは、小さい頃から利府町にある森郷キャンプ場によく遊びに訪れていました。県外のいろいろな所でさまざまな職を経験し、10年前にUターンして利府町にやってきました。2007年から森郷キャンプ場の厨房でコックとして働き、2017年1月からは、キャンプ場内にオープンしたカ

なかった宿泊棟を用いて、海外や県外から来たボランティアを受け入れたんです。多いときには1日に80名ものボランティアがキャンプ場で生活し、延べ人数で1万5千人の人々を被災地に送り出しました。

ゴスペルシンガーとしても活動していた松田さんは、南三陸町・石巻市・東松島市などの学校や仮設住宅でコンサートやワークショップのボランティアも行いました。「ニューヨークでの音楽修行を経て出会ったゴスペルは、悲しみを突き抜けて喜びに変えることのできる音楽だと実感しています。震災のときには、被災した

皆さんにそれを一番体験してもらいたかった。以前住んでいた大阪のミュージシャン仲間たちが、何度も支援のため足を運んで支えてくれました」と振り返ります。

「支援活動も落ち着き、やっとキャンプ場自体の再開を考えはじめたとき、もっと日常の中で気軽に来もらえる場所がほしいと思いました。そこで、もともと従

業員居住だったこの建物をカフェにDIYしたんです。被災地支援で知り合った仲間や友人たちと半年かけて作り上げた空間は、約60年物の梁と手作りの白い壁が印象的で、建物の新旧の歴史とあたたかみを感じます。

カフェ「生石庵」の店名は、キャンプ場の創設者の一人であり、当時カ



フェ「生石庵」の店長として働いています。

カフェを開くきっかけは、東日本大震災でした。「震災でキャンプ場の建物は大きな被害を受けましたが、その後は後回しにして沿岸部の被災地支援を行いました。被害の少

-お店の情報 生石庵 OISHI-AN

■ 宮城県宮城郡利府町森郷内の自南森郷キャンプ場内
☎ 050-3558-0149
● 営業時間 11:00~17:00
定休日 原則、木・日曜 (WEBサイトなどでご確認の上お越しください)
□ <http://r.goope.jp/cafeoishian>

■ アクセス
● JR利府駅より車で10分。
● 三陸自動車道「利府IC」より車で約7分。
「松島海岸IC」より車で約10分。



利府町で暮らす面白い人を毎号ひとりずつ紹介していきます

「十符（とふ）とは? 昔、利府町の湿地帯には、良質な蕎（スグ）草が生じ、「菅鷺（スガコモ）」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅鷺の編み目が10編あることから「十符の菅鷺」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになります。」と 笠原（とね）に、符が府に変わったと言われています。

from RIFU-CHO CHALLENGER 2017.10

— CHALLENGER —
阿部清梨園
阿部真由美さん

—— 梨の生産から販売まで

黄色い看板が目印の阿部清梨園の直売所は、イオン利府店近くの利府街道（県道8号線）沿いにあります。9~10月の間は、時期によって異なる品種の梨をカゴ売りで販売。朝10時からお店を開き、その日用意した梨が完売するまで営業しています。早いときは、午前中で全ての梨が売り切れることがあるといいます。常連のお客さんも多く、予約販売も行っています。

店頭では、水々しきと甘みが特徴の「幸水」や、ほどよく酸味と甘みのバランスがとれた「豊水」といったボビュラーな赤梨はもちろん、「20世紀」「菊水」といった酸味のバランスがとれた青梨も提供しています。真由美さんは、お客様に梨の試食をしてもらうときに、この梨は「甘いよ」「すっぱいよ」と味の特徴をはっきりと伝えています。丹精込めて作ったものだから、その人の好みの梨を買ってもらいたいという想いからです。



—— 利府の看板梨「長十郎」の今

真由美さんは、平成元年に岩出山町から利府町に嫁いで以来、利府梨専門の農家として働いてきました。利府梨の代表格といえば「長十郎」ですが、利府全体でも年々その生産量は減ってきていました。阿部清梨園には、長十郎の苗木はあるものの、お客様用には作っていないそうです。「気候が暖かくなって合わなくなってきたようだ」と真由美さん。それでも「長十郎が一番美味しい」と言います。利府梨のイメージを支えて来た「長十郎」は、なかなか手に入りにくい存在になってきているかもしれません。



—— 先人の想いを次世代につなぐ

「利府は、とても居心地がいいです。人や土地に恵まれていると思います。町の日常が豊かになって、いつまでも栄え続けたらいいですね」と利府で暮らして良かったと松田さん。そして、「生石庵を一代で終わらせるこなく、次世代にちゃんとつなげたい。町の未来や暮らしのビジョンを描ける若者を育て、後継者にしたい」。過去と未来、故郷と世界が出会い交わる場所として、「これからもこの場所から地域に貢献していきたい」それが、松田さんの願いです。

■ 取材・文 板橋芳理



—— 賴もしい後継者

従業者が減って梨の総生産量も減ってきており、後継者問題は深刻ですが、「うちは、息子が後を継ぐことが決まっています」と真由美さん。年々縮小してきた梨畠も、息子さんが継ぐことで再び少しづつ増やしています。「その畠でどんな品種の梨を作るかは、息子に決めさせています」と笑顔で語ります。現在は、土地の気候と販売のことを考えてみずみずしく甘味のある「あきづき」の生産に力を入れていますが、「利府でまだ多く育てられていない品種にもチャレンジするのが目標」「新甘泉」という鳥取で開発された比較的新しい品種にもチャレンジしてみたい」と意欲的です。

■ 取材・文 佐藤陽友

**利府の梨は、
品種が豊富で味も豊か！**

— INFORMATION —

阿部清梨園
■ 利府町利府字新中道28
☎ 022-356-2708



小さな商いをみんなでやろう！

tsumikiを会場に行われる直接販売のお知らせです。それぞれ個性豊かな物品、美味しい食品などが並びますので、ぜひ遊びに来てください。

出張カヨウカフェ in tsumiki

2017年11月2日(木)・12月7日(木)
10:00~15:00

カヨウカフェは、子育て・介護で頑張っている女子を応援したいをかなえる共同サロンです。出店者とふれあいながら、ほっつー思つけるひと時をお過ごしください。企画運営:マキノハウス

ママと手づくりマルシェ

2017年11月8日(水)
10:00~13:00

ママとキッズ向けのハンドメイドのイベントを開催します。カワイイ手づくりの作品がたくさん集まるマルシェをお楽しみください。企画運営:HANDMADE ままマルシェ

もくようマルシェ

2017年11月16日(木)・12月21日(木)

利府町内外から人気のお店が集まる小さなマーケットを開催します。作品販売のほかに、体験やワークショップができるスペースを用意しています。企画運営:もくようマルシェ実行委員会

手仕事から始まるマルシェ～クリスマスパーティー～

2017年12月17日(日)
11:00~16:00

さまざまなジャンルの手仕事ショップが集まります。得意な分野の手仕事を、仕事にしたいというママたちの小さな挑戦を応援するマルシェです。企画運営:Handi work studio chizu

こ・あきない市～冬の陣～

2018年2月12日(月・祝)

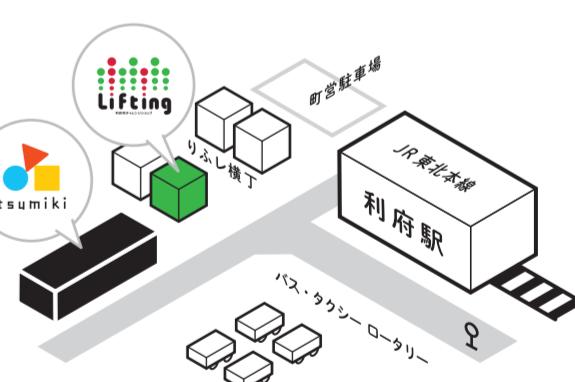
毎回、多くの皆さんにご来場いただいている「こ・あきない市」。2018年冬の陣の開催が決定しました。詳しい内容は、tsumikiホームページなどでお知らせしますので、どうぞお楽しみに。企画運営:Granny Rideto 主催:利府町



利用時間
9:30~17:30
(水・金曜日は21:00まで開館)

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2
TEL 022-766-9231
FAX 022-766-9232
Email info@rifu-tsumiki.jp



設置者 利府町(政策課政策班)

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。政策課政策班は、地方創生の総括部門として「利府ならでは」のシティセールス政策や、移住・定住政策などに取り組んでいます。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意志が込められています。

管理運営(業務委託者) 一般社団法人Granny Rideto
Granny Rideto(エスペラント語)は、日本語で「おばあちゃんの笑顔」と訳します。これから高齢化社会を迎える中で、おばあさんになっても笑顔で暮らせることをつくりたいという意味が込められています。

公式ウェブサイト rifu-tsumiki.jp Twitter [@rifu_tsumiki](https://twitter.com/rifu_tsumiki) Facebook [@rifu_tsumiki](https://www.facebook.com/rifutsumiki) Instagram [@rifu_tsumiki](https://www.instagram.com/rifutsumiki)

つみきのキモチ vol.05 発行日 2017年10月25日 発行・利府町 企画・一般社団法人Granny Rideto 編集・桃生和成・葛西淳子 (一般社団法人Granny Rideto) 協力・利府町教育委員会・宮城大学佐々木秀之研究室 デザイン・homesickdesign